

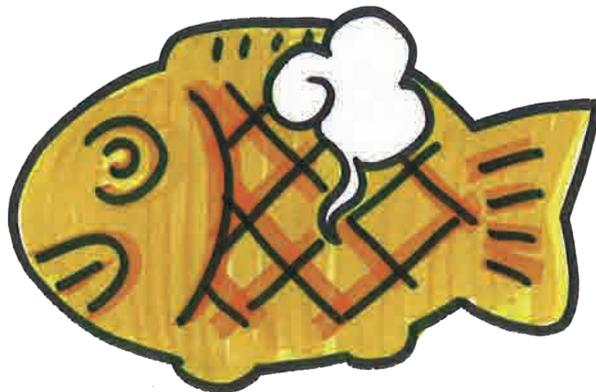
目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (ことば編)
- 3 童謡 一月一日
- 4 回文 たいやき焼いた
- 5 今月の詩 漣は 北原白秋
- 6 たし算 同じ足し算
- 7 ことわざ 無理が通れば道理引っ込む 目の上のたんこぶ
目は口ほどに物を言う 元の木阿弥 餅は餅屋
- 8 うた 角度のうた
- 9 俳句 小林一茶 松尾芭蕉 杉山杉風
- 10 かぞえうた 4冊 8冊 12冊 (絵本)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた 川の岸のみずぐるま
- 13 今月のうた しりとりのうた
- 14 慣用句 骨身を削る 胸をおどらせる 猫をかぶる
- 15 イメージトレーニング スティーム (第10話 大星雲M42)
(イメージしてみましよう)
- 16 おはなし いなばの白うさぎ
- 17 漢詩 黄鶴楼
- 18 百人一首 周防内侍 曾禰好忠 元良親王 参議等
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

たいやき^や焼いた



た	い	や	き	や	い	た
---	---	---	---	---	---	---



さぎなみ
漣は

きたはらはくしゅう
北原白秋

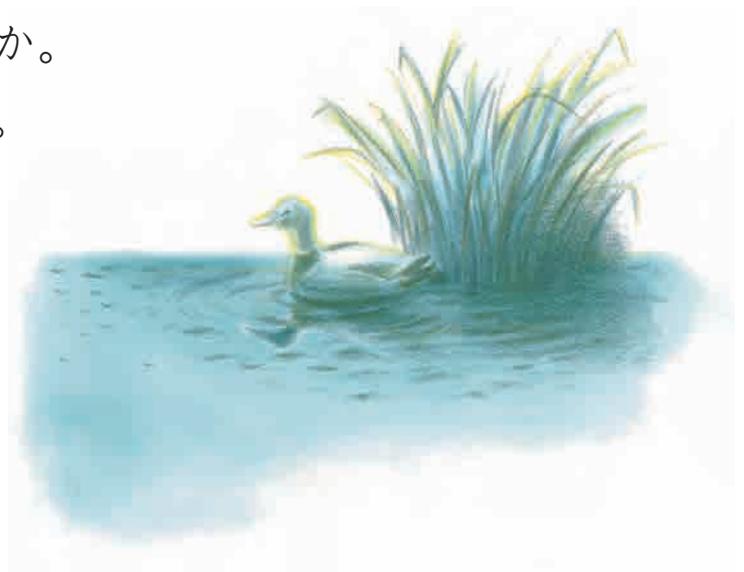
さぎなみ だれ おこ
漣は誰が起すの。
あし ね あお かも
葦の根の青い鴨だよ。

かも くび つき
鴨の首月をあびるよ、
みずかきがちららうごくよ。

かげ
くろい影なんでうごくの。
みず ゆ
でこぼこの水の揺れだよ。

かも
おや、鴨はどこへいったろ、
なみ
波ばかりちららひかるよ。

かも み
ほいそうか、鴨が見えぬか。
て つき
あまり照る月のせいだよ。



ことわざ

あ り とお どう り ひ
無理が通れば道理引っこむ

む り な こ と が せ の な か に 行 わ れ れ ば、 道 理 に か な っ た こ
お こ な
とは行われなくなる。



め う え
目の上のたんこぶ

じ ぶ ん い ち じ つ り ゃ く う え な に
自分より位置や実力が上で、何かにつけてじゃまにな
るもの。



め くち もの い
目は口ほどに物を言う

くち だ い わ な く て も、 め つ き で あ い て き も つ た
口に出して言わなくても、目つきで相手に気持ちを伝
えることができる。



もと もく あ み
元の木阿弥

く し ん ど り ゃ く み ず あ わ ふ た た じ ょ う た い
苦心や努力も水の泡となり、再びもとの状態にもどっ
てしまうこと。



もち もち や
餅は餅屋

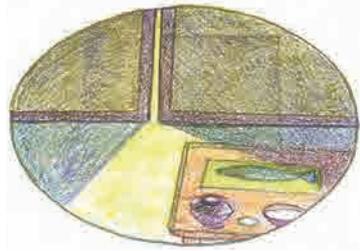
もの ごと せんもん か し ろ う と せんもん か
物事にはそれぞれの専門家があって、素人は専門家に
はおよばないこと。



俳句

つぎまの 間の ひで 膳につく さむさかな

こばやし いっさ
小林一茶



たびや 旅に 病んで ゆめか の 夢は 枯れ野を かけめぐる

まつお ばしょう
松尾芭蕉



えりまき 襟巻に くびひき 入れて ふゆの つき

すぎやまさんぶう
杉山杉風



なぜなぜ

- 1 ぞうはぞうでも足あしの下したにはかかれているぞうはなあに？
- 2 びんはびんでも、必かならずスタンプを押おしてあるびんはなあに？
- 3 一いっ回かいしかまいてないのに、八はっ回かいもまいたというものはなあに？
- 4 ぶりはぶりでもせともの屋やさんで売うっているぶりはなあに？



《川の岸のみずぐるま》

① かわのきしのみずぐるま



みぎに8ほ、あるく

② ぐるっとまわって

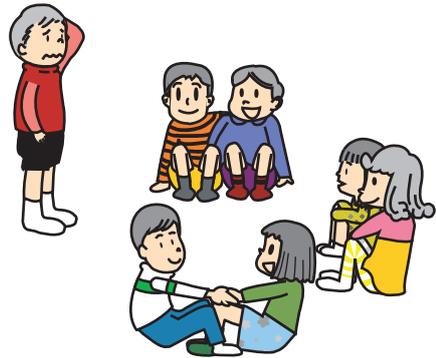


ひだりに8ほ、あるく

③ いそいでふたりづれの
のこりはおによ

①～②をくりかえす

④ いちにっさん



いそいでふたりぐみに
なって、すわる

⑤ (①からくりかえす)



ふたりぐみになれなかったひとが
おにとなり、まんなかにすわる

《しりとりのうた》

(しりとりあそび みんなはいくつ ^い言えるかな)

あり りす すみ みみ みせ

セロリ りんご ゴリラ ラムネ ねずみ

みのむし しまうま まないた たけのこ

(まだまだ^っ続くよ)

こま まくら らっきょう

うま ますく くつした

たけ けむし しんごう

うし しめじ ジュース

(じょうずにできたね)



ほね み けず
骨身を削る

みが細くなるほど苦労する。



むね
胸をおどらせる

期待や喜びでうきうき、ドキドキする。



ねこ
猫をかぶる

知っていながら知らないふりをする。本性をかくし、おとなしそうに見せかける。

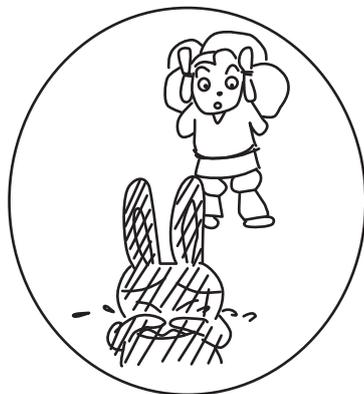
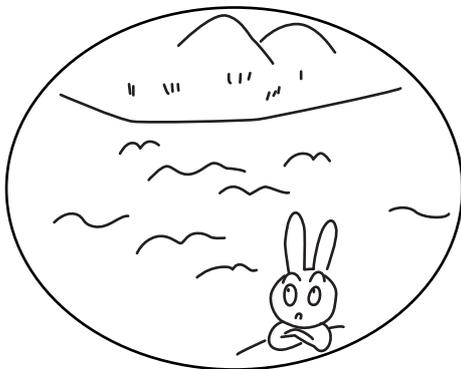


おはなし



「いなばのしろうさぎ」は、毛をむしりとられたしろうさぎをオオクニヌシノミコトがたすけるお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 海岸にいたウサギは、どんな様子でしたか。
- 2 どうしてウサギは、そんな風になったのですか。
- 3 兄神たちは、ウサギに何と言いましたか。
- 4 そのようにしたウサギは、どうなりましたか。
- 5 オオクニヌシノミコトは、ウサギに何と言いましたか。



黄鶴楼こうかくろう

崔さい

顥こう

昔人せきじん 已すでに白雲はくうんに乗じようじて去さり
 此この地ち 空むなしく余のこす 黄鶴楼こうかくろう
 黄鶴こうかく 一ひとたび去さりて復また返かえらず
 白雲はくうん 千載せんざい 空むなしく悠悠ゆうゆう
 晴川せいせん 歴歴れきれき 漢陽かんようの樹じゆ
 芳草ほうそう 萋萋せいせい 鸚鵡洲おうむしゅう
 日暮にちぼ 郷関きようかん 何いずれの処ところか是これなる
 煙波えんぱ 江上かうじやう 人ひとをして愁うれえしむ

百人一首

春の夜の

夢ばかりなる

かひいかりなる
たむ手枕に

名こそ惜しけれ

(周防内侍)

由良の門を

渡る舟人

かぢを絶え
恋の道かな

(曾禰好忠)

わびぬれば

今はた同じ

難波なる
逢はむとぞ思ふ

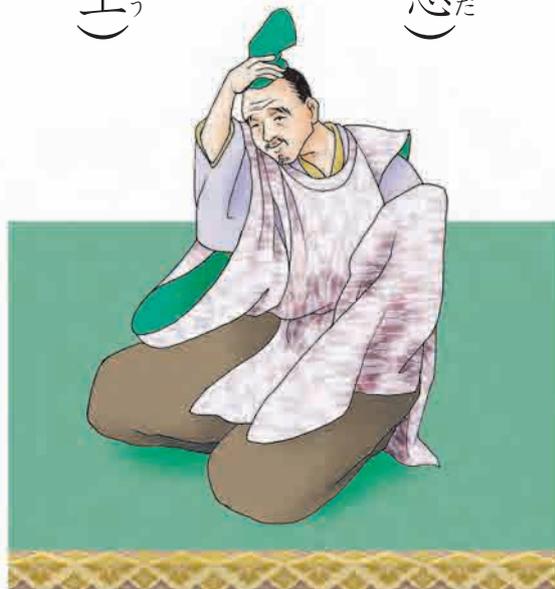
(元良親王)

浅茅生の

小野の篠原

忍ぶれど
人の恋しき

(参議等)



曾禰好忠